

第 24 期 自然史・古生物学分科会（第 1 回） 議事録

日時：平成 30 年 1 月 31 日（水）13:30～15:30

場所：日本学術会議 5 階 5-C(1)会議室

出席者（五十音順、敬称略）：大路樹生、岸本建雄、北里洋、窪川かおる、西弘嗣、西田治文、松浦啓一、真鍋真、（以下スカイプ出席）西田睦、堀利栄

欠席者：武田洋幸、白山義久、鷲谷いづみ

議題：

1. 松浦委員より第 24 期の新委員の紹介があった。松浦委員長、大路副委員長、窪川幹事が第 24 期役員になることが出席委員により承認された。

2. 大学の学術標本資料について

堀委員より前期に引き続き「学術標本等散逸問題検討ワーキンググループ (WG)」（堀委員、大路委員、西委員、真鍋委員）」を設置したいとの提案があり、出席委員により承認された。その後、第 23 期から継続する WG の活動について報告があった。標本調査の優先順位、岩石・鉱物と古生物の調査方法の相違などが議論された。また、調査範囲は大学中心であること、若手に調査を経験してもらう必要性など、実施に向けて具体的な意見交換がなされた。

3. 国立自然史博物館設立の設立を目指すシンポジウム（2017 年 11 月 4 日）の報告及び関連課題について

松浦委員長より資料「シンポジウム等の概要について（事後報告）」に基づき、国立自然史博物館設立に向けた活動の現状および平成 29 年 11 月 4 日に開催したシンポジウムの説明があった。西田（睦）委員よりシンポジウムの詳細と平成 30 年沖縄開催の準備を始めているとの報告があった。

岸本委員より机上配布資料「一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会」に基づき、社団法人設立の経緯について説明があった。最新情報として、平成 29 年 8 月に沖縄県知事から沖縄担当大臣に手交された要望書の最終項目に国立自然史博物館設立が記されていることが報告された。

4. その他

西委員より第 24 期に社会における自然史の重要性を人材育成と絡めて提言にまとめることが提案され、継続して議論していくことになった。

大路委員より平成 30 年度国際生物学賞の分野は古生物学（人類学を含める）であり、11-12 月に受賞記念国際シンポジウムがあることが報告された。

西田（治文）委員より自然史関連のネットワーク充実が必要であるとの意見が出された。

以上。